

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	認定NPO法人さわおとの森 利府こども発達センター 保育所等訪問支援 のびっこ		
○保護者評価実施期間	7年 1月14日		7年 2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	7年 1月14日		7年 2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	7年 1月14日		7年 2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	14件	(回答数) 12件
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 3日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問前に家庭、訪問施設先、相談支援事業所相談支援員から事前情報を把握。困り感や課題について、より良いアドバイスにつながるよう多職種の意見も聞き入れ、様々な角度から意見を出し合い取り組んでいる。	事前に訪問先の先生方と連絡を密に取り合い、保護者のニーズと相違が無いように気を付けている。 支援を続けていく中で必要性を感じた場合は、他の職種が訪問できるよう情報の共有を行っている。	先生方に信頼される立場となって支援できるよう関係機関との連携も重視している。 スケジュール管理と適切なアドバイスが出来るように訪問前に十分なディスカッションを行っている。
2	専門職(作業療法士・言語聴覚士・心理士)が、利用児の支援ニーズに応じて訪問できる。	児童の特性、保護者の希望、訪問先の学校や各園に応じた専門職が訪問できるよう、個別の支援計画をもとに訪問担当者を決定している。	それぞれが専門分野の知識や技術をさらに身につける。 より支援ニーズに適した訪問ができるよう専門職間で支援内容をさらに検討する。 具体的な支援方法を提案する際に、担任の先生がより実施しやすい簡易な方法を提案できるよう工夫していきたい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問希望者に対し専門職の人数も限られているため、訪問開始まで待機期間が生じてしまう。特に後期は、やむを得ずお断りするケースもある。	専門職の育成。(訪問同行、ディスカッション、研修等へ積極的に参加し支援に必要なスキルを身に着ける。) 個別支援計画の目標達成が確認された場合は、訪問支援の終了を提案することも必要と感じている。	訪問直前にお子さんや訪問先の情報を得るのではなく、定期的に行われる担当者会議等で情報を共有しながら訪問依頼に備える情報把握に努める。
2			
3			